



標高1,709mを誇る大山(だいせん)は、鳥取砂丘と並ぶ鳥取県の自然遺産

境港について
山陰を代表する天然の良港「境港」。国内屈指の漁港であるのみならず、今まさに「西日本の物流拠点」、「北東アジアにおけるゲートウェイ」へと大きく飛躍を遂げようとしています。2010(平成22)年8月、国から重点港湾の指定を受け、直轄事業での港湾整備を重点的に行う港湾に位置付けられました。

○ アクセス

住所

(事務所・発電所)
鳥取県境港市昭和町2-9
〒684-0034
TEL 0859-42-6200 FAX 0859-42-6230
ホームページ <https://sakaibp.p-kit.com/>

交通

【飛行機をご利用の場合】
米子鬼太郎空港を降機後、タクシーで約15分

【電車をご利用の場合】
JR境線 境港駅にて下車、タクシーで約10分



境港市ホームページより



境港バイオマス発電所



当発電所は、株式会社 東京エネシスが建設し、同社の100%出資である合同会社境港エネルギーパワーがO&M事業を手掛けております。

発電した電気は、FIP制度(卸市場や相対取引により自ら売電し、その売電価格に対して一定のプレミアムを上乗せされる制度)を利用しております。また、CO2削減及び燃料調達に関しては持続可能性確保に配慮し取り組んでおります。

当社は、バイオマス発電の事業を通じて脱炭素社会の実現に向け、安全を最優先に事業を推進し地域に貢献してまいります。



合同会社 境港エネルギーパワー

○ 会社概要

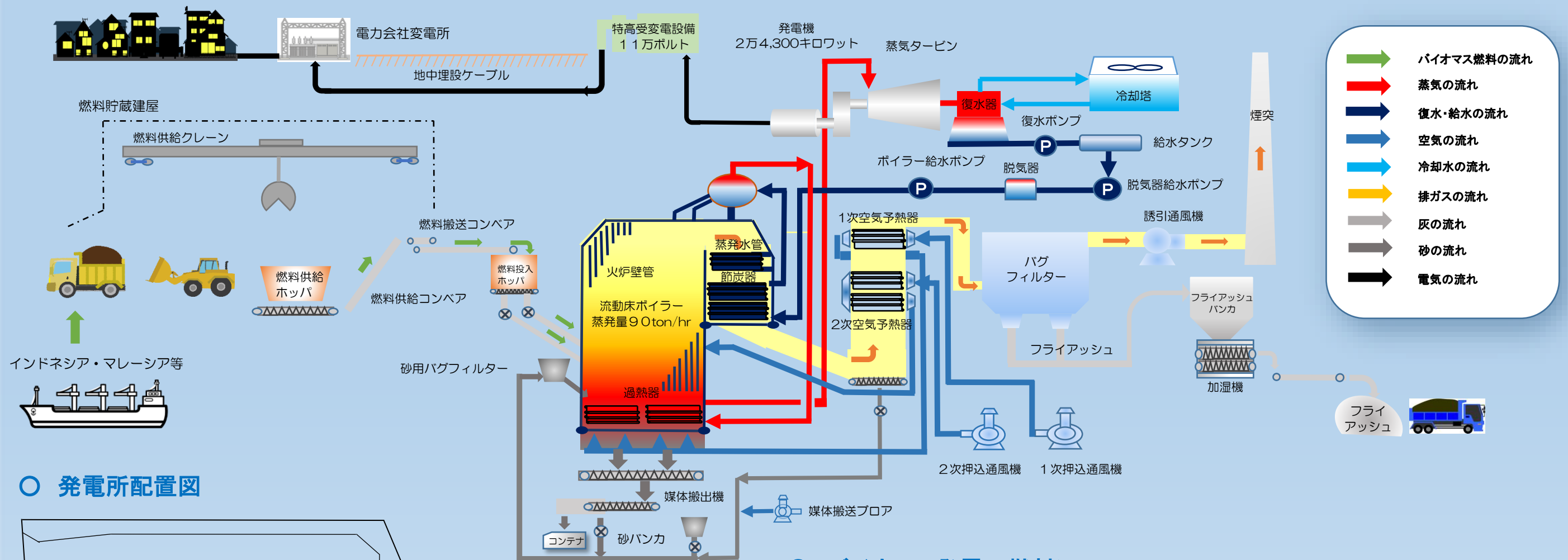
■会社名	合同会社 境港エネルギーパワー
■代表者(社長)	佐藤 浩延
■設立年月日	2017年 4月
■沿革	2019年 12月 着工に向けた拠点として、境港市に事務所を開設 2020年 10月 起工式 2022年 10月 営業運転開始(FIT制度) 2025年 8月 FIT制度からFIP制度へ移行

○ 発電設備概要

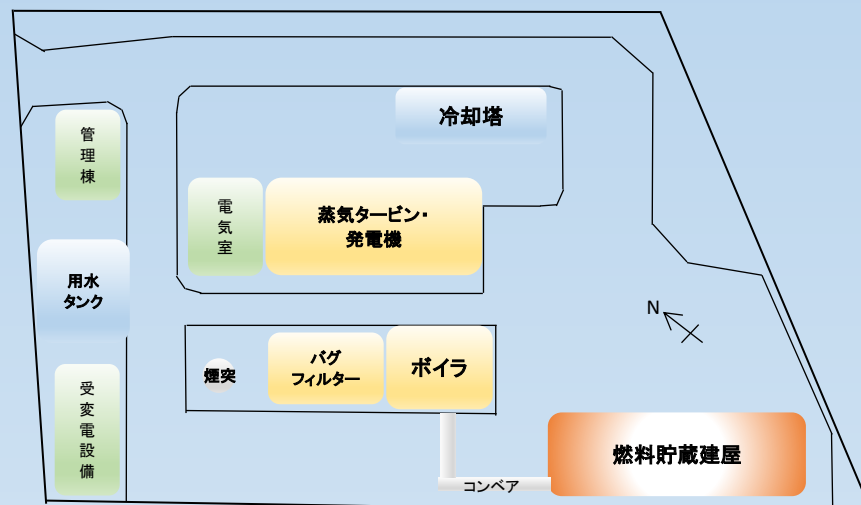
■設備名称	境港バイオマス発電所
■敷地面積	約2万6,000平方メートル
■発電出力	2万4,300kW
■年間発電量	166.32GWh(4万世帯分の年間電気消費量)
■使用燃料	パーム椰子種殻、バーク(樹皮)材

○ バイオマス発電のしくみ

年間発電量は約 4万世帯分となり、境港市総世帯数の2.5倍以上となります。



○ 発電所配置図



○ バイオマス発電の燃料について

主な燃料は、東南アジアが原産のパーム椰子殻です。通常であれば産業廃棄物として処理されますが、バイオマスの燃料として使用することにより、熱利用や発電に活かすことが可能となります。

その他にも、境港市にて発生したパーク(樹皮)材を使用し、近隣港灣事業の資源循環にも貢献させていただきます。



■パーム椰子の実



■ パーム椰子殻



■木質チップ^o(バーク材)